

インターバンクの声（2017年11月29日）

昨夜の海外市場では、米FRBの次期議長に指名されたパウエル氏の上院公聴会での発言に注目が集まっていたが、その他の材料にも敏感に反応する神経質な一日となった。ロンドン市場での円相場は111円30銭前後を中心にした小動き状態が続いたが、ニューヨーク市場の午前中に発表された11月の米コンファレンスボード消費者信頼感指数が2000年11月以来の高水準となったことで、まずは一旦ドル買いとなった。だが程なくしてパウエル氏の公聴会が始まると、緩やかな利上げ軌道の継続になるとの証言にドルが売り戻された。それでも株価の上昇もあって再びドルが上昇したものの、北朝鮮がミサイルを発射したとの報道により、またしても111円08銭まで売られる。その後は11/30になるかと思われていた共和党の税制改革法案が米議会上院で承認されて、再び111円60銭台まで反発している。円高側にバイアスが掛っている状況に変化はないように見えるが、ドル買いも根強く簡単には円買い一辺倒になり難いようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。